

資料

2024年度における生物同定試験の結果

石間妙子・中島淳・更谷有哉・石橋融子

2024年度に窓口依頼検査として実施した生物同定試験27件について概要をまとめた。依頼理由別にみると、食品中異物が21件、事業所内発生が2件、家屋内発生が1件、その他（由来不明など）が3件であった。検出回数が最も多いのはコウチュウ目の12件で、次いでカメムシ目、チョウ目、ハエ目の3件であった。種まで同定できたものは9件であった。同定依頼の件数は6月が6件と最も多く、次いで10月が5件であった。

[キーワード：衛生害虫、ペストコントロール、食品中異物]

1 はじめに

当所では窓口依頼検査として生物同定試験を実施している。本試験は、主に衛生害虫を対象とし、持ち込まれた虫体（昆虫綱以外も含む）について、種の同定を行い、その結果について成績書の発行を行うものである。本試験の依頼内容は、衛生害虫に関する社会的関心の変化によって年変動があることから、本報では、2024年度における生物同定試験の結果をまとめ、その傾向について考察を行った。

2 検査の方法

持ち込まれた検体は、発生状況についての聞き取りを行い、その依頼理由を食品中異物（食品中から発見されたもの）、事業所内発生（工場や会社事務所等で発見されたもの）、家屋内発生（一般住居から発見されたもの）、皮膚掻痒（皮膚掻痒症原因ダニ類の検査）、その他（研究機関依頼、由来不明など）の5つに区分して記録した。

持ち込まれた検体は、実体顕微鏡下で直接鏡検し同定した。このうち、乾燥している検体は、10%水酸化カリウム溶液に数時間浸潤し、軟化させた後に検鏡した。また、粘着テープなどに付着している検体は、2-プロパノール液に24時間程度浸潤し、粘着物を剥がした後に検鏡した。

3 結果及び考察

2024年度における生物同定試験の依頼件数は計27件であった。最近5年間の依頼件数は25-37件で²⁻⁶⁾、2018年度以降は30件前後が続いており、それ以前よりも件数が少ない傾向がみられている。

依頼件数の依頼理由の内訳を図1に示す。食品中異物が全体の78%にあたる21件と最も多く、残り6件のうち事業所内発生が2件、家屋内発生が1件、その他が3件であ

った。過去5年間の本試験における食品中異物の依頼件数の割合は65-87%で²⁻⁶⁾、おおむね全体の2/3以上を占めていることから、2024年度も例年と同様の傾向であったと言える。

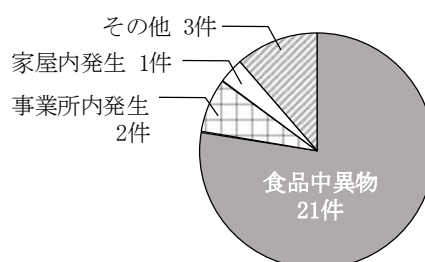


図1 2024年度における依頼理由の内訳

月別の依頼件数と依頼理由の内訳を図2に示す。依頼件数が最も多かったのは6月の6件で、次いで10月の5件、7月、8月、9月、12月の3件であった。1992年度以降の依頼件数は、夏季を中心に温暖な時期に多いことが報告されており²⁻⁸⁾、2024年度も同様の傾向が見られたと言える。

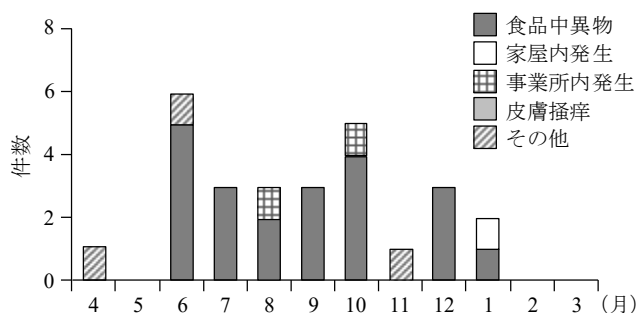


図2 2024年度における月別の依頼件数と依頼理由の内訳

表1に、検体から検出された虫体について、各月における目別の検出数を示す。目まで同定できたものは26検体で、残りの1検体は破損が著しいため綱以上の高次分類群までしか同定できなかった。検出数が多かった分類群としては、コウチュウ目が12検体と最も多く、次いでカメムシ目、チョウ目、ハエ目がそれぞれ3検体であった。これらの分類群は、農業害虫や乾燥食品の害虫、不快害虫などとしてよく知られる種が多く含まれる目である。

コウチュウ目のうち、ゴミムシダマシ科、シバンムシ科、オサムシ科はそれぞれ3検体が検出され、ヒメマキムシ科、カツオブシムシ科は1検体ずつ検出された。残りの1検体は科以下の同定はできなかった。ゴミムシダマシ科、シバンムシ科、カツオブシムシ科は、乾燥食品を食害することよく知られた種が多く含まれる科で⁹⁻¹⁰⁾、ヒメマキムシ科は室内に発生したカビ類を食べる種が多く含まれる¹¹⁾。オサムシ科は基本的に屋外性であるが、成虫の多くは正の走光性があり灯火に飛来して屋内に侵入することがある。

持ち込まれた検体のうち、種まで同定できた9検体の種名と発生状況の内訳を表2に示す。このうち8検体は食品中異物、1検体は家屋内発生であった。表2に示す種のうち、オオハリアリは食品中から検出されたものの、農業害虫や食品害虫として知られた種ではない。タバコシバンムシは3検体から検出された。本種は世界各地に広く分布し、幼虫・成虫とも乾燥葉タバコを食害する重要害虫として知られている⁹⁻¹⁰⁾。タバコ以外にも、乾燥した植物質の食品を広く食害するほか、畳表、ドライフラワー、乾燥ハーブ等を食害する例も多い。また、穿孔能力が強く、食品包装の外部から穿孔し内部の食品を加害することもある。それ以外の5検体においても、古い時代から食品害虫や農業害虫、家屋内害虫として問題視されている節足動物で、継続して一定の問題を起こしていることがわかる。

これまでの生物同定試験の結果をまとめた報告¹²⁾によると、衛生意識の変化等により、本試験の依頼理由が変化することが知られている。また、これまでに衛生害虫として認識されていなかった生物種が検出される事例も生じている。県内の衛生害虫の発生傾向や発生時期などの動向を把握するため、今後も引き続き本試験の結果を整理し、衛生害虫対策検討の一助としていきたい。

表1 各月における目別の検出数

| 綱 | 目 | 月 | | | | | | | | | | | | 計 |
|----|-------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|----|
| | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | |
| 昆虫 | ハサミムシ | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | ゴキブリ | | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| | カメムシ | 1 | | | | 1 | | | | 1 | | | | 3 |
| | ハチ | | | | | 1 | | | | | 1 | | | 2 |
| | コウチュウ | | 2 | 2 | 1 | 2 | 3 | | | 1 | 1 | | | 12 |
| | チョウ | | 1 | | | | | 1 | 1 | | | | | 3 |
| | ハエ | | 1 | | | | | 1 | | 1 | | | | 3 |
| | 目不明 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 軟甲 | 等脚 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| | 計 | 1 | 6 | 3 | 3 | 3 | 5 | 1 | 3 | 2 | | | | 27 |

表2 種まで同定できた9検体の種名と発生状況

| 目 | 種 | 検体の発生状況 |
|-------|--------------|------------------|
| カメムシ | ミナミアオカメムシ | 食品中異物（ワイン） |
| ハチ | オオハリアリ | 食品中異物（穴子寿司） |
| コウチュウ | タバコシバンムシ | 食品中異物（うどん類） |
| コウチュウ | タバコシバンムシ | 食品中異物（ゆでうどん） |
| コウチュウ | ユウレイヒメマキムシ | 家屋内発生（新築マンションの床） |
| コウチュウ | ガイマイゴミムシダマシ | 食品中異物（ごま高菜） |
| コウチュウ | オオツノコクヌストモドキ | 食品中異物（パン生地） |
| コウチュウ | タバコシバンムシ | 食品中異物（バターロール） |
| ハエ | キイロショウジョウバエ | 食品中異物（栗の甘露煮） |

文献

- 1) 宮本旬子，大内忠行：衛生動物，27，251-259，1976.
- 2) 中島 淳ら：福岡県保健環境研究所年報，47，109-110，2020.
- 3) 石間妙子ら：福岡県保健環境研究所年報，48，126-127，2021.
- 4) 石間妙子ら：福岡県保健環境研究所年報，49，106-107，2022.
- 5) 石間妙子ら：福岡県保健環境研究所年報，50，117-118，2023.
- 6) 石間妙子ら：福岡県保健環境研究所年報，51，146-147，2024.
- 7) 緒方 健，山崎正敏，杉 泰昭：福岡県保健環境研究所年報，29，154-155，2002.
- 8) 中島 淳，石間妙子，須田隆一：福岡県保健環境研究所年報，39，113-114，2012.
- 9) 安富和男，梅谷献二：改訂新版衛生害虫と衣食住の害虫，2007，（全国農村教育協会，東京）
- 10) 日本家屋害虫学会：家屋害虫事典，1995，（井上書院，東京）
- 11) 松崎沙和子，武衛和雄：都市害虫百科，1993，（朝倉書店，東京）
- 12) 石間妙子ら：福岡県保健環境研究所年報，52，79-82，2025.